

Build/Install with Paludis

青田直大 (@naota344)

2011 年 03 月 02 日

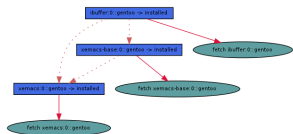
Paludis

- Gentoo で使えるパッケージマネージャのひとつ
- Exherbo などの Gentoo 派生ディストリビューションでも使われている
- 対応するリポジトリフォーマット
 - ebuild & VDB
 - ようするに Gentoo のフォーマット
 - exheres
 - ようするに Exherbo のフォーマット

特徴

- グループごとの USE flag などを指定できる
- 速い
 - C++ で書かれてる
- overlay を使わずに複数リポジトリに対応している
 - layman を統合してる感じ
- フックスクリプトを動かせる
- 依存チェックが厳しい
- リポジトリからインストールするものの自動再インストール
 - git のおっかけに便利!

グラフが描ける



他にも

- Python, Ruby, C++ の binding がある
- API が定義されているのでそれを使ってプログラムを書ける
- ebuild のチェックがちょっと厳しい

Portage からの移行

- USE=portage で portage の設定ファイルがそのまま使える
- portage2paludis スクリプトを使う
 - http://git.pioto.org/?p=paludis-scripts.git;a=blob_plain;f=portage2paludis.bash
- 自分でがんばる
 - <http://paludis.pioto.org/overview/gettingstarted.html>

tree の更新

- リポジトリの更新をする
- cave sync
- 複数リポジトリを登録していると並行に走ってる様子

パッケージのインストール

- `cave resolve hogehoge`
- `-x` をつけると実際に実行

パッケージのアンインストール

- `cave uninstall hogehoge`
- `-x` をつけると実際に実行

パッケージの更新

- アップデートされたパッケージを更新する
- `cave resolve -x world`
 - `-x` がなかったら実行内容を計算するだけ
- 並行にビルドするオプションは多分ない

いらぬパッケージの削除

- `cave purge`
- `-x` をつけると実際に実行

pbins

- バイナリパッケージ
- USE=pbins
- 独自のフォーマット
 - メタデータの pbin ファイル
 - ファイルの tar ball
- 使い方
 - バイナリ専用のリポジトリを作る
 - `cave resolve -make binaries`
 - `cave resolve -via-binary`

layman

- playman
- layman で使えるリポジトリを Paludis で使えるようにする
- -l: リストアップ
- playman -a hogehoge hogehoge を追加

cgroup

- ビルドしてるとおもい!!
- これは Portage 使っても悩みの種でしょう!

cgroup

- ビルドしてるとおもい!!
- これは Portage 使っても悩みの種でしょう!
- そんなあなたに cgroup!!!!!!

cgroup ってなんですか？

- プロセスをグループ化する
- なにがうれしいのか？

cgroup ってなんですか？

- プロセスをグループ化する
- なにがうれしいのか？
- たとえばグループごとに制限ができる
 - CPU 使用率
 - Disk IO (2.6.38 から)

実際どうなってるか見てみよう

- CGFreak によるデモ
- CGFreak はうちの overlay から autounmask して emerge cgfreak

cave のスクリプト

- スクリプトを作っておこう
- Gentoo Wiki にものってます
 - http://en.gentoo-wiki.com/wiki/Improve_responsiveness_with_cgroups